

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 17 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320078

研究課題名(和文)南宋江湖詩派の総合的研究

研究課題名(英文)General Researches on the Civilian Poet Group in Southern Song Dynasty

研究代表者

内山 精也 (UCHIYAMA, Seiya)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：20275019

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,800,000円、(間接経費) 4,140,000円

研究成果の概要(和文)：13世紀、宋(南宋)から元への交代期に、非士大夫層(江湖)詩人の詩作が一世を風靡した。本研究は、彼らを「中国伝統詩歌の近世化」という観点から照射する、全世界初の試みである。この3ヶ年の研究期間においては、まず対象のディテールを少しでも多くクリアーにし、具体的な問題を一つでも多く発掘することを目標とした。そのために、個別テーマを個人研究の形で進めたほか、毎年、国際シンポジウムを開催し、海外から関連の研究者を招聘し、意見交換する場をもった。また、今年度(2014)中に、勉誠出版の『アジア遊学』の特集号において、一般読者に向けて本研究の意義を発信してゆく予定である。

研究成果の概要(英文)：This study is the first approach to investigate these poems from a view point of 'the modernization of Chinese traditional poems'. Our researches in the past three years have focused on describing the details of the subjects and disclosing some specific matters of interest. For this purpose, we not only advanced our studies individually but also discussed the issues with researchers in an international symposium every year and exchanged opinions. In this year, 2014, we are going to publish the results of our investigation in a special issue of 'Asia Yugaku' by Bensei Shuppan and disclose the significance of this research to common readers.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：中国文学 中国古典詩 南宋文学 市民文学 出版文化と古典詩歌 地域文化と古典詩歌 日中比較詩学 江湖派

1. 研究開始当初の背景

本研究は、13世紀、南宋後期のマイナー・ポエト群、江湖詩派の諸活動を、中国伝統文学における近世的現象の萌芽と見なす立場から再評価し、これまでの詩歌史ないしは文学史観の再構築を目指すものである。従来中国近世文学史では、戯曲や小説等の白話系文学が重点的に叙述され、研究も自ずとそこに集中してきた。そのため、もっとも伝統的な文体、文言系の作品は、「近世＝通俗化の時代」という認識に照らして、付随的に言及されることが常であった。本研究は、そこにメスを入れ、文言系の伝統韻文、古近体詩に焦点を当て、その変質の跡を丹念に辿ることによって、もう一つの近世文学史を構築することを企図する。

しかしながら、これまで、南宋後期の江湖詩人たちは、研究対象としては、日本ではまったく無視され続けてきた。中国においては、張宏生氏の『江湖詩派研究』(1995年1月、中華書局)を嚆矢として、二、三の専著が公刊されているが、いずれも本研究のような視点(近世文学としての江湖派をとらえる)からのアプローチではない。そのせいもあってか、今なおホットな研究対象にはなっていない。

本研究は、これまで看過されてきた対象にスポットを当て、彼らに近世的意義を見出すという新たな観点からアプローチするものである。

2. 研究の目的

南宋江湖詩人の詩作活動の諸相を洗い出し、彼らに特徴的な具体的な文化現象を一つでも多く掬い出して、彼らの輪郭をより明確にする。その上で、元明清との関係性を明らかにし、近世文学史における位相を浮き彫りにする。

3. 研究の方法

本研究は8名による共同研究である(海外協力研究者の10名を加えると、18名からなる)。基本は8名各自が定めたテーマに即した個人研究の形を採るが、短期的により多くの複合的成果を導き出すために、「市民文学班」「地域文化班」「比較詩学班」という3つのグループを作り、各人が正・副最低二つのグループに属するように配置して、自ずと複数の視点から、当該対象にアプローチできる態勢を取った。海外の協力研究者に対しては、8名の不足を補ってもらうべく、予め入念に人選を行い、事前に希望のテーマを伝えて、我々の希望に沿う内容の研究発表を行ってもらった。毎年一回、年度の後半に国際シンポジウムを開催し、個人乃至グループにおいて進められた研究の報告、ならびに海外協力者の発表を行い、さらに意見交換を行って、問題を点から線へ、線から面へと発展的にとらえる機会とした。

4. 研究成果

8名の強半が初めてアプローチする対象であったため、この3年間では、まず対象を精確に理解し、問題の所在を明らかにすることをミニマムの目標とし、8名それぞれが個別テーマに即して、関連資料を収集し、テキストを読み込むという基礎的作業からスタートした。現時点では、そのような初期段階がほぼ完成に近づき、個人差はあるが、アウトプットの準備が整いつつある状況にある。よって、研究チームとしての面的な問題群の共有、もしくはその開発への情報集約という応用段階に到達するには、なおも一定の時間を要するものと判断される。

特筆すべき成果としては、計3回の国際シンポジウムを開催し、日本と海外、とくに中国の関連の学者が一堂に会し、関連の成果を持ち寄り討論したこと、そして本研究テーマの可能性を対外的に示し、日中の関連学会に向けてこのテーマの意義を改めて強力に発信した点を、第一に挙げるべきであろう。宋代文学関連では、日中双方に研究組織が存在し、定期的に学术交流するプラットフォームができてはいるが、個別の限定的テーマを三年連続して議論し合うような事例はこれまで存在しなかった。したがって、全世界初の試みといつてよい。

第二に、いまだ有機的な相互連絡性に乏しいとは言え、個別の具体的な研究成果がすでに数多く生まれた点である。これらの研究成果は、共同研究者の所属機関の紀要類や、日中の学会誌、さらには学術誌『江湖派研究』第2輯と第3輯に掲載されている。これら個々の学術論文がさらなる問題点を創成し、やがて所期の目的である面的な問題群へと発展してゆくことを大いに期待している。

第三に、この3年間の共同研究の諸活動を通して勝ち得た個々の問題点を、本研究プロジェクトに関わったすべての研究者が再確認し、次なるステップへと進むために、『アジア遊学』(勉誠出版)で江湖派の特集号を編集し、世に問うつもりである。『アジア遊学』はアジアを対象とする人文系すべての領域の研究者が購読する雑誌である。よって、3年間の研究成果を、中国古典詩学関連の研究者に止まらず、ひろく隣接領域の研究者に向けて発信する格好の機会となる。数年後、あたらなる研究チームを構成する際の呼び水となることを期待している。

3年の研究期間中に未完成の研究テーマも多く存在するので、それらの公表の場としては、江湖派研究会の学術誌『江湖派研究』が主たる役割を担ってゆくことになる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計32件)

1. 内山精也、転回する南宋文学 宋代文学は

- 「近世」文学か?、名古屋大学中国文学研究室、中国語学文学論集、査読無、26号、2013、pp.1-10
2. 内山精也、朱剛訳、長淮詩境（南宋篇）愛国、憂国的意識形態、楊国安・呉河清編、河南大学出版社、第七屆宋代文学国際研討会論文集、査読有、2013、pp.310-326
 3. 内山精也、朱剛訳、長淮詩境（南宋篇）愛国、憂国的意識形態、国立東華大学中国語文学系、東華漢学、査読有、17期、2013、pp.105-136
 4. 内山精也、朱剛訳、宋末元初の文学言語 晚唐体の走向、王次澄・斉茂吉編、華藝学術出版社、融通与新变 世变下的中国知識分子与文化、査読有、2013、pp.179-211
 5. 内山精也、宋末元初の文学言語 晚唐体の行方、日本中国学会、査読有、64集、2012、pp.171-186
 6. 内山精也、長淮の詩境 愛国、憂国というイデオロギー、江湖派研究会、査読無、2輯、2012、pp.65-92
 7. 浅見洋二、宋代文本生成論之形成 從欧陽脩撰『集古録跋尾』到周必大編『欧陽文忠公集』、楊国安・呉河清編、河南大学出版社、第七屆宋代文学国際研討会論文集、査読有、2013、pp.348-359
 8. 浅見洋二、眼中に歴歴として颯風を見る—陸游の詩にうたわれた楽土としての農村—、懷徳堂記念会、懷徳、査読無、82号、2013、pp.35-45
 9. 池澤一郎、荷風の俳文学 芭蕉・其角・蕪村に学ぶ、早稲田大学国文学会、国文学研究、査読有、2013、pp.12-24
 10. 池澤一郎、葛西因是の唐詩論 館柳湾編書の序文と「辨唐詩」、明治大学徳田研究室、江戸風雅、査読無、7号、2013、pp.59-78
 11. 池澤一郎、葛西因是の詩学、アートライフ社、書法漢学研究、査読無、2013、pp.39-53
 12. 高橋幸吉、金末元初における非士大夫層の詩作 楊宏道と河汾諸老、江湖派研究会、江湖派研究、査読無、3輯、2013、pp.48-65
 13. 種村和史、嚴粲詩緝所引朱熹詩說考、慶應義塾大学日吉、中国研究、査読無、7号、2014、pp.1-51
 14. 種村和史、作者の意図から国史と孔子の解説へ 嚴粲詩経解釈における小序尊重の意義、慶應義塾大学日吉、中国研究、査読無、6号、2013、pp.1-47
 15. 種村和史、宋代詩経学対詩篇結構的認識以及『毛詩正義』の関係、中華書局、国際漢学研究通訊、査読無、4期、2012、pp.197-214
 16. 東英寿、劉克莊の鑑定眼 その詩文創作観との関連、九州大学比較社会文化研究院、比較社会文化、査読有、20巻、2014、pp.53-59
 17. 東英寿、中国国家図書館蔵南宋刊『欧陽文忠公集』考、楊国安・呉河清編、河南大学出版社、第七屆宋代文学国際研討会論文集、査読有、2013、pp.95-101
 18. 東英寿、新見欧陽脩書簡考、国立東華大学中国語文学系、東華漢学、査読有、15期、2012、pp.277-288
 19. 保苺佳昭、姜白石の張鑑に関する詞と詩、宋詞研究会、風絮、査読無、10号、2014（校正中）
 20. 保苺佳昭、姜白石における詞 江湖派詩人の交流における詞の意味、特に蕭德藻、雲間洞天、范成大に関する詞を取り上げて、江湖派研究会、江湖派研究、査読無、3輯、2013、pp.23-47
 21. 堀川貴司、伝本一覽および『錦繡段』との関係について 『新選集』『新編集』研究その四、慶應義塾大学斯道文庫、斯道文庫論集、査読無、48輯、2014、pp.119-143
 22. 堀川貴司、日本中世における『三体詩』の受容 五山を中心として、江湖派研究会、江湖派研究、査読無、3輯、2013、pp.66-78
 23. 堀川貴司、増補・改編本による補遺および諸本所収作品対照表 『新選集』『新編集』研究その三、慶應義塾大学斯道文庫、斯道文庫論集、査読無、47輯、2013、pp.111-147
 24. 堀川貴司、禅僧による禁中漢籍講義 近世初期『東坡詩』の例、堀川貴司・浅見洋二編、汲古書院、東アジア海域叢書、蒼海に交わされる詩文、査読無、2012、pp.147-169
 25. 堀川貴司、翻刻 慶應義塾大学図書館蔵『統新編分類諸家詩集』付.他本による補遺 『新選集』『新編集』研究その二、慶應義塾大学斯道文庫、斯道文庫論集、査読無、46輯、2012、pp.351-397
 26. 堀川貴司、『覆篋集』について 室町時代後期の注釈付き五山詩総集、岩波書店、文学、12巻5号、2011、pp.39-52
 27. 侯体健、種村和史訳、劉克莊の郷紳身分とその文学の全体像の形成 ならびに「江湖詩派」の再認識について、江湖派研究会、江湖派研究、査読無、3輯、2013、pp.1-22
 28. 卜東波、高橋幸吉訳、域外漢籍に見られる南宋江湖詩人の新資料およびその価値、江湖派研究会、江湖派研究、査読無、3輯、2013、pp.79-123
 29. 羅鸞、會谷佳光訳、『江湖前・後・続集』探源、江湖派研究会、江湖派研究、査読無、2輯、2012、pp.1-32
 30. 錢志熙、種村和史訳、「四靈」の詩風と宋代温州地域文化との関係について、江湖派研究会、江湖派研究、査読無、2輯、2012、pp.33-65
 31. 江湖派研究会、保苺佳昭編、戴復古五律訳注（ ）、江湖派研究会、江湖派研究、査読無、3輯、2013、pp.162-243
 32. 江湖派研究会、保苺佳昭編、戴復古五律訳注（ ）、江湖派研究会、江湖派研究、査読無、2輯、2012、pp.66-155

*以上、海外発信という観点から、翻訳された論文については、同一論文でも原則すべてを掲載し

た。

〔学会発表〕(計 29 件)

1. 内山精也、日本五山禅林における西湖憧憬 万里集九を例として、浙江工商大学東亜文化研究院・早稲田大学日本古典籍研究所共催、「意象西湖：東亜名勝的誕生、流伝和移動」国際シンポジウム、2013 年 9 月 15 日、於中国浙江省杭州市
2. 内山精也、転回する南宋文学 宋代文学は「近世」文学か？、第一回中部地区中国文学交流会、2013 年 7 月 6 日、於名古屋、愛知大学
3. 内山精也、宋代文学の言語空間 士大夫と非士大夫 / 文言と白話、国際ワークショップ「中国伝統文化の形成 江南、12-14 世紀」、2013 年 3 月 15 日、於早稲田大学文学部
4. 内山精也、中国近世前期的の文言と白話、国立中央大学、「世変下的中国知識分子と文化」国際研究会、2012 年 3 月 28 日、台湾桃園県
5. 内山精也、南宋江湖詩人の位相と研究の可能性、第一回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「江湖派研究のパスpekティブ」、2011 年 12 月 26 日、於大阪大学文学部
6. 内山精也、長淮詩境（南宋篇） 作為辺塞的淮河、中国宋代文学学会、第七届宋代文学国際學術研討会、2011 年 9 月 18 日、於中国河南省開封市
7. 浅見洋二、江湖派と陸游・楊万里、第三回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「新たな可能性に向けて」、2013 年 11 月 23 日、於早稲田大学
8. 浅見洋二、宋代文本生成論之形成 從欧陽脩撰『集古録跋尾』到周必大編『欧陽文忠公集』、中国宋代文学学会、第七届宋代文学国際學術研討会、2011 年 9 月 18 日、於中国河南省開封市
9. 池澤一郎、日本近世の江湖詩社の盟主・市河寛齋について 『北里歌』を中心に、第二回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「深化と展開」、2012 年 10 月 20 日、於京都・同志社大学
10. 高橋幸吉、金末元初における非士大夫層の詩作 河汾諸老とその周辺、第二回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「深化と展開」、2012 年 10 月 20 日、於京都・同志社大学
11. 種村和史、巖漿は朱熹の詩経研究をどのように受け継いだか？ 『詩緝』所引朱熹詩説考、第三回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「新たな可能性に向けて」、2013 年 11 月 23 日、於早稲田大学
12. 東英寿、劉克莊の鑑定眼 その詩文創作観との関連、第三回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「新たな可能性に向けて」、2013 年 11 月 23 日、於早稲田大学
13. 東英寿、欧陽脩の書簡 96 篇の発見について、日本中国学会、第 63 回大会、2011 年 10 月 9 日、於九州大学
14. 東英寿、中国国家図書館蔵南宋刊『欧陽文忠公集』考、中国宋代文学学会、第七届宋代文学国際學術研討会、2011 年 9 月 18 日、於中国河南省開封市
15. 保効佳昭、江湖派詩人の交流における詞の意味—特に姜夔の詞から—、第二回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「深化と展開」、2012 年 10 月 20 日、於京都・同志社大学
16. 堀川豊司、五山僧の別集に見る偈頌と詩、国立歴史民俗博物館、国際シンポジウム「東アジアをむすぶ漢籍文化 敦煌から正倉院、そして金沢文庫へ」、2013 年 11 月 3 日、於国立歴史民俗博物館
17. 堀川豊司、日本五山における『三体詩』の受容、第一回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「江湖派研究のパスpekティブ」、2011 年 12 月 26 日、於大阪大学文学部
18. 張宏生、江湖詩人と晋宋風致—姜夔の生活模式と詩歌風格—、第一回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「江湖派研究のパスpekティブ」、2011 年 12 月 26 日、於大阪大学文学部
19. 侯体健、閑適唱酬、組詩形態と劉克莊晚年詩歌創作的主流 從幾組“效後村体”談起、第一回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「江湖派研究のパスpekティブ」、2011 年 12 月 26 日、於大阪大学文学部
20. 陳広宏、從元明“晚唐体”觀看江湖派的歷史境遇、第一回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「江湖派研究のパスpekティブ」、2011 年 12 月 26 日、於大阪大学文学部
21. 査屏球、江湖詩派と『三体詩』流行之關係考、第一回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「江湖派研究のパスpekティブ」、2011 年 12 月 26 日、於大阪大学文学部
22. 王水照、『錢鍾書手稿集・中文筆記』与江湖体研究、第二回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「深化と展開」、2012 年 10 月 20 日、於京都・同志社大学
23. 錢志熙、論『千家詩選』与劉克莊及江湖詩派的關係、第二回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「深化と展開」、2012 年 10 月 20 日、於京都・同志社大学
24. 羅鸞、書棚本唐宋小集發微、第二回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「深化と展開」、2012 年 10 月 20 日、於京都・同志社大学
25. 卞東波、域外漢籍所見南宋江湖詩人新資料及其價值、第二回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「深化と展開」、2012 年 10 月 20 日、於京都・同志社大学
26. 阿部順子、戴復古の謁客詩について その修辭技法の特徴と干謁の実相、第三回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「新たな可能性に向けて」、2013 年 11 月 23 日、於早稲田大学
27. 朱剛、僧詩、“晚唐体”与“江湖詩人”

従『聖宋高僧詩選』談起、第三回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「新たな可能性に向けて」、2013年11月23日、於早稲田大学

28.熊海英、詩在“江湖”被邊緣化的詩人和作為詩歌場域的“江湖”、第三回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「新たな可能性に向けて」、2013年11月23日、於早稲田大学

29.張健、江湖与廟堂之間 晚宋詩歌的邊緣化与詩人群体的遊士化、第三回南宋江湖詩派研究国際シンポジウム「新たな可能性に向けて」、2013年11月23日、於早稲田大学

〔図書〕(計3件)

- 1.東英寿、欧陽脩新発見書簡九十六篇 欧陽脩全集の研究、研文出版、単著、2013、226p
- 2.池澤一郎、雅俗往還 近世文人の詩と絵画、若草書房、単著、2012、504p
- 3.池澤一郎、儒学、ペリかん社、江戸の文学史と思想史、共著、2011、pp.11-88

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

内山 精也 (UCHIYAMA, Seiya)
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授
研究者番号：20275019

(2)研究分担者

浅見 洋二 (ASAMI, Yoji)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：70184158

池澤 一郎 (IKEZAWA, Ichiro)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：70257228

高橋 幸吉 (TAKAHASHI, Kokichi)
慶應義塾大学・商学部・准教授
研究者番号：80508656

種村 和史 (TANEMURA, Kazufumi)
慶應義塾大学・商学部・教授
研究者番号：90265926

東 英寿 (HIGASHI, Hidetoshi)
九州大学・比較社会文化研究科・教授
研究者番号：90218686

保苅 佳昭 (HOKARI, Yoshiaki)
日本大学・商学部・教授
研究者番号：40229159

堀川 貴司 (HORIKAWA, Takashi)
慶應義塾大学・附属研究所斯道文庫・教授
研究者番号：20229230

(3)連携研究者(海外協力研究者)

張 宏生 (ZHANG, Hongsheng)
香港浸会大学・文学院・教授

侯 体健 (HOU, Tijian)
復旦大学・中国語言文学系・講師

陳 広宏 (CHEN, Guanghong)
復旦大学・中国古籍研究所・教授

查 屏球 (ZHA, Pingqiu)
復旦大学・中国語言文学系・教授

王 水照 (WANG, Shuizhao)
復旦大学・中国語言文学系・教授

銭 志熙 (QIAN, Zhixi)
北京大学・中国語言文学系・教授

羅 鷺 (LUO, Lu)
四川大学・文学与新聞学院・講師

卞 東波 (BIAN, Dongbo)
南京大学・中国語言文学系・副教授

朱 剛 (ZHU, Gang)
復旦大学・中国語言文学系・教授

張 健 (ZHANG, Jian)
香港中文大学・中国語言文学系・教授